

すわみつえ通信

No.340 2024年12月2日

日本共産党鴻巣市議会議員
諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



身近な議員として もっと届け
たい声がある 声をかたちに

すわみつえ市議一般質問 12月16日(月)午前11時頃より 小中一貫校などを質問

1. 川里地域における小中一貫教育校整備について

学校統廃合が果たして子どもたちの幸せにつながるのか



子どもの権利条約が1989年に国連で採択されました。1994年に日本が条約を批准して、30年の節目の年です。本市においてはこの条約に基づいた条例を策定するための会議が開催されています。子どもの意見表明の権利が保障され、子どもたちが幸せを感じることができる社会にしていくかなければならないと思います。

本年10月に文部科学省が公表した小中高校の不登校児童生徒数は41万5千人と過去最多になりました。

子どもたちが安心して楽しく学校に通えていない実態が浮き彫りになったのではないでしょうか。

本市においてはこのような中、不登校児童生徒の課題を喫緊に取組むとしていますが、全庁あげて取組んでいるのは適正規模適正配置の名の学校統廃合ではないでしょうか。

川里地域小中一貫教育の名で進める学校統廃合が果たして子どもたちの幸せにつながるのか質問をします。

2. 必要な介護サービスが必要なときに利用できる介護事業について



2019年度から23年度の5年間で、全国で訪問介護事業所の4分の1にあたる8648カ所が廃止されました。事業所の撤退・廃止後、それに代わる新規の参入がない地域では、介護事業所が「消滅」の危機にひんする事態となっています。全国的な介護人材不足・事業者不足の中で、本市の状況を質問します。



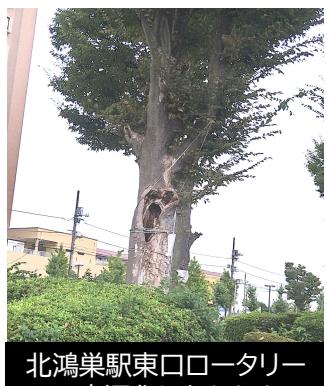
3. SDGsの視点を取り入れ、改訂を行った「鴻巣市緑の基本計画」を実行することについて =緑化推進と樹木の管理=

ハナミズキ最後の一葉の赤いこと
瑠璃子
【俳句コーナー】

この秋に北鴻巣駅東口ロータリーのケヤキが2本伐採されました。樹木の空洞化によるものです。温暖化が進む中、日陰効果、二酸化炭素の吸収効果が高い高木は重要だと考えます。

また、樹木のある景観は日常生活を潤しています。

「鴻巣市緑の基本計画」(市内の貴重な緑地を保全し、うるおいや安らぎ、憩いをもたらす公園や緑地の整備に向けた基本的な方針を定めた計画)では緑化推進のモデル地区として、駅前等8地区を選定しています。樹木の管理について質問をします。



北鴻巣駅東口ロータリー
の空洞化したケヤキ
=2024.9.29撮影

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。
(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口



鴻巣北本労働組合連合会第32回定期大会開催される

11月26日(火)に鴻巣北本労働組合連合会(鴻北労連)の第32回定期大会が北本市文化センターで開催され、1年間の活動報告と次年度の運動方針が討議されました。

鴻北労連は、①要求に基づく「共同」の行動、②働くものの権利向上をめざす取り組み、③平和と民主主義を守るたたかい、を柱に運動を続けています。

日本共産党鴻巣市議団から連帯のご挨拶をさせていただきました。

石破首相が所信表明演説 11月29日

きょうの潮流

まず改るべきは政治であり、政府であるとの見地から、政府部内を戒めるとともに、国民がはっきりと希望を持ち得る政治を行いたい。自民党初の総裁選で首相となった石橋湛山(たんざん)の施政方針演説です▼戦前、言論人として小日本主義を主張し、植民地政策や戦争に異論を唱えた湛山が自民党のトップになったことは内外に衝撃を与えたといいます。しかし病に倒れ、わずか65日で首相退任。施政方針も岸信介による代読でした▼それを石破首相が所信表明演説で引用しました。「国政の大本について常時率直に意見をかわす慣行をつくり、おののの立場を明らかにしつつ、力を合わせるべきことについては相互に協力を惜しまず…」。各党派との真摯(しんし)な政策協議は民主主義のあるべき姿だと▼少数与党の国会が始まりました。数の横暴で多くの願いや声を無視し続けてきた自公による強権政治からの転換。そして、国民の要求に応える政治へ。それこそが総選挙で示した民意です。共産党は、政治改革の要となる企業・団体献金の全面禁止、思想・信条や政党支持の自由を侵す政党助成金を廃止する法案を提出。学費値上げの中止要請をはじめ、生活や人権を守るための施策と次々と政府に求めています▼石破首相が「今の日本政治に対する重要な示唆がある」とたたえる湛山は「国民とともに明るい政治を築くようにしたい」と施政方針を締めくくりました。それをどう実現していくのか。民意に背を向けた所信表明からは見えてきません。

(しんぶん赤旗 11月30日付)

スーパーマンは来ない

米国で「実話」映画の題になった環境活動家の名前は、今や動詞としても通じるらしい。辞書風に書けばこんな感じか。【エリン・ブロコビッチする】目的達成まで諦めずに調べ、闘い続ける▲学歴なし、資格なしのシングルマザーだった彼女。勤め先の法律事務所で水道の化学物質汚染に気付くや、猛然と真相を追う。大企業の垂れ流しを暴いて約30年前、集団訴訟で史上最高額の和解金を得る。映画ではジュリア・ロバーツさんが演じた▲彼女も追っかけた化学物質の一つ、有機フッ素化合物(PFAS)について今週、岡山県吉備中央町が住民の血液検査に乗り出した。一部の浄水場から極めて高い濃度で見つかったからだ▲公費を投じた検査は全国初というものの、汚名返上を期するところもあるだろう。町が実態を明かした昨年の時点で少なくとも2年間、町民は知らぬまま、その水を使わされていた。情報共有の遅れが、要らぬ不安や不信を招いた面は否定できまい▲「スーパーマンは来ない」。ブロコビッチさんが水問題でつかんだ信念だという。あなた任せでは誰も助けに来てくれない。一人一人が立ち上がりないと、命の水は守れないのかもしれない。

【中國新聞 11月28日付 コラム「天風録」】